

2025 年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 13 日

1. 職名・氏名 西 弘嗣

2. 学位 学位 理学博士、専門分野 地質学、授与機関 九州大学、授与年 1987

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 地球史(2単位, 学部生), 地球環境学概論(2単位, 学部生), 地層学(2単位, 学部生), 古生物学 専攻演習 I(2 単位, M1 年), 古生物学専攻演習 II(2 単位, M2), 古生物学専攻実験 I (2 単 位, M1), 古生物学専攻実験 II(2単位, M2 年)
② 内容・ねらい 生物進化と地球環境の関係を理解し, 恐竜がどのような進化をしてきたか, またどのような環境に 生息していたかを理解する.
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ビジュアルに理解できるように講義を工夫し, 古生物だけでなく地質や古海洋などの分野も取り入 れて, 環境との関係を総合的に理解できるように工夫している.
(2)その他の教育活動
内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	
第3章 中生代の生物相. 181-341. シリーズ地球生命史 恐竜の時代, 共立出版.	【1本】
② 学術論文 (査読あり)	
(1)Brad S. Singer, Reishi Takashima, Youjuan Li, Mark D. Schmitz, David Selby, Bradley B. Sageman, Luca G. Podrecca, Hiroshi Nishi, Brian R. Jicha, and Toshiro Yamanaka (2025) Radioisotopic age, osmium isotopes, and global correlation of the Albian-Cenomanian boundary Radioisotopic age, osmium isotopes, and global correlation of the Albian-Cenomanian boundary. The Geological Society of America, https://doi.org/10.1130/B38503.1 .	
(2) Tomaru, T., Takashima, R, Orihashi, Y., Yamanaka, T., Ando, H.,Asahara, Y., Nishi, H., Kuroyanagi, A. and Otsubo, T. (2025): First evidence of the Lower Cretaceous Weissert Event in the Northwestern Panthalassa: carbon isotope stratigraphy and U-Pb radiometric ages of the Somanakamura Group in Northeastern Japan. Newsletters on Stratigraphy, Vol. 58/2, 219-238.	【1本】
③ その他論文 (査読なし)	【0本】
④ 学会発表等	
(1) Terrestrial ecosystem response against environmental change across the Cenomanian/Turonian boundary recorded by biomarkers in sediments from the Great Valley Sequence, California, USA, Ikeda et al., 12th International Cretaceous Symposium , 2025年9月1日	
(2) Paleoenvironmental variations recorded by molecular fossils in sedimentary rocks deposited across the Cretaceous/Paleogene boundary in the Nemuro Group, Hokkaido, Japan. Kinoshta et al., JpGU Meeting 2025年5月28日	
(3) Discovery of evidence of the Chicxulub impact in East Asia. Hayu Ota et al., European Geosciences Union General Assembly 2025 (EGU25), Vienna, Austria, 2025年4月27日-5月2日	
(4) 東北日本に分布する最下部白亜系の炭素同位体比変動と国際層序対比. 都丸大河ほか, 日本地球惑星科学連合2025年大会, 2025年5月28日	
(5) 北海道白糠丘陵に記録された白亜紀-古第三紀境界隕石衝突イベントの地球化学的証拠の発見. 太田映ほか, 2025年度日本地球化学会第72回年会, 2025年9月19日	
(6) 北海道根室層群の白亜紀/古第三紀境界堆積岩中の分子化石に記録された古環境変動. 木ノ下りとみほか, 日本地球惑星科学連合2025年大会, 2025年5月28日	
(7) 白亜紀中期における菌類フロアの変遷復元: 白亜系海洋無酸素事変 層準堆積岩を用いた菌類バリノモルフ分析の適用. 池田雅志ほか, 日本古生物学会 2025 年年会 (札幌), 2025年6月28日	
(8) 北海道川流布K/Pg境界の珪藻分子化石記録の考察. 木ノ下りとみほか, 日本古生物学会 2025 年年会 (札幌), 2025年6月29日	
(9) 蝦夷層群羽幌川層堆積岩のバイオマーカー分析によるコニアシアン-サントニアン期の堆積環境復元. 高橋 温ほか, 日本地質学会第132年学術大会 (2025 熊本大会), 2025年9月16日	
(10) 蝦夷層群羽幌川層堆積岩のバイオマーカー分析: チューロニアン-カンパニアン期の陸域古植生復元. 高橋 温ほか, 第42回有機地球化学シンポジウム, 2025年11月5日	【10件】
⑤ その他の公表実績	【0本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(1) 極限温暖化時に生じた森林大崩壊の全容解明 (基盤研究B, 代表)	
(2) 東アジア初の完全な K/Pg 境界層から探る白亜紀末・大量絶滅における環境変動 (基盤A, 分担)	
(3) 人文科学と材料科学が紡ぐ新知創造学際領域の形成 (学際領域領域展開ハブ形成プログ	

ラム)
(4) 日本沿岸域における十～百年規模変動解明に向けた新たな冬季モンスーン指標の適用 (基盤 C, 分担)
(3)特許等取得
(4)学会活動等
日本学術会議会員 (26 期), 日本地質学会理事

5. 地域・社会貢献活動

公開講座 公立大学協会農学部会 (2025 年 9 月 11 日) 京都福井県人会創立 9 0 周年記念祝賀会 (2025 年 11 月 29 日)

6. 大学運営への参画

(1)補職
恐竜学研究所所長
(2)委員会・チーム活動
教育研究審議会
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス
(4)その他、自発的活動など